仕様書

半導体・情報インフラ部

１．件名

サイバーセキュリティにかかる国内外の動向調査

２．目的

「経済安全保障重要技術育成プログラム／先進的サイバー防御機能・分析能力強化」（以下「本プロジェクト」）において、サイバー空間の状況把握力や防御力の向上に資する技術や、セキュアなデータ流通を支える暗号関連技術等を開発し、その成果を社会実装につなげることにより、我が国のサイバー領域における状況把握力・防御力を飛躍的に向上させる活動を行っている。

本調査事業では、日本国内及び米国・欧州等におけるサイバーセキュリティにかかる方針や取り組み等を包括的に調査・分析、整理する。これにより本プロジェクトの研究開発項目の方向性、成果イメージ、スピード感を測る目安とするとともに、円滑な社会実装につなげることを目的とする。

３．内容

以下の（１）～（５）について実施すること。各調査内容については、本プロジェクト関係者との協議を踏まえ適宜改善すること。なお、当該調査事業は本プロジェクトの研究開発項目①②③に沿ったものとする。

（１）海外における制度、標準、規制、技術などの動向に関する調査

主要国（米国、欧州、その他の地域）の最新技術の導入状況及び特筆すべき動き（３件以上）について調査すること。対象関連機関の有識者へのヒアリング、国内外で開催される学会、シンポジウム等における発表内容及び参加者へのヒアリング、文献調査等により実施すること。なお、対象とする技術の例としては以下が挙げられる。

・AI による侵入・異常検知、攻撃手法・脆弱性探索
・マルウェア・ランサムウェア対策
・ペネトレーションテスト自動化

（２）米欧主要機関の動向に関する調査

米国 NIST、米国 MITRE、欧州 ENISA の現在取組中の主要な活動について、背景と達成状況、参画組織（企業等）、キーパーソンについて調査すること。

（３）国内外におけるサイバー攻撃と防御技術の動向に関する調査

生成 AI の普及を踏まえたサイバー攻撃手法や攻撃対象、被害状況、防御手法の変化及び今後想定される脅威とそれに対する海外主要国の対策や方針について調査すること。

また、現在一般的に利用されている暗号技術に対する量子計算機技術の進展の影響と、それに対する国内外主要国（米国、欧州、アジア、その他の地域）で行われている対策について調査すること。

さらに、先進的サイバー防御に関する研究開発の動向として、以下の観点についても可能な範囲で把握すること。

・能動的サイバー防御に関する技術・制度動向
・攻撃の予測・未然防御に係る分析技術
・国家レベルでの防御体制強化に関する取組

※上記については、現時点で把握可能な範囲での整理とすること。

（4）調査結果の分析と取りまとめ

（1）～（3）の調査結果を取りまとめ、先進的サイバー防御機能・分析能力強化に係る研究開発テーマ①②③の活動方針について、実施計画書の内容を踏まえた提言を行うこと。

（5）その他

NEDO からの要請があった場合は、協議の上、可能な限り反映すること。また、調査の観点については、協議により追加される場合がある。

当該調査の実施により知り得た知見・個人情報は、当該調査のためだけに利用することとし、調査終了後は速やかに情報を破棄すること。

4．調査期間

NEDO が指定する日から 2027 年 3 月 31 日まで

5．報告書

提出期限：調査報告書　2027 年 3 月 31 日

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って作成の上、提出すること。

https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html

6．報告会等の開催

調査結果を基に報告資料を作成し、報告会を実施・運営すること。報告会は毎月１回程度開催することとし、第１回は 10 月とする。報告会は以下の区分で実施する。

- 定例報告会：速報性を重視した調査結果の報告
- 中間報告会：３か月に１回程度、調査結果の整理及び提言について議論
- 成果報告会：最終的な成果及び提言の報告

以上